

企業ニュース 三菱ケミカルホールディングス

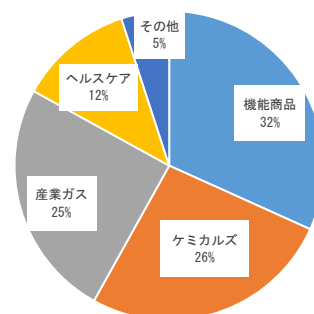
(東証1部: 4188) <https://mitsubishichem-hd.co.jp/>

作成者: 兵藤三郎

三菱系大手化学メーカー

2005年、三菱化学および三菱ウェルファーマを子会社とする持ち株会社として設立された、三菱系の国内大手化学メーカー。アクリル樹脂などの原料となるMMA（メタクリル酸メチル）は世界シェア約40%を占めるトップメーカー。三菱化学は、2007年に三菱樹脂を、2010年に三菱レイヨンを開買付けにより取得、統合し三菱ケミカルを発足させた。同社は機能商品、ケミカルズのセグメントを担う事業会社。三菱ウェルファーマは2007年に田辺製薬と合併し田辺三菱製薬に社名変更、医療用医薬品の事業を展開する。同社は2020年に完全子会社化された。2014年大陽日酸を開買付けにより取得、同社は2020年に日本酸素ホールディングスに社名変更、産業ガスの事業を展開している。2021年4月、ギルソン氏が代表執行役社長に就任、海外大手化学メーカーでの知見を活かした経営手腕に期待が持たれている。

◇21. 3期売上高構成比



(出所) 三菱ケミカルホールディングス
資料よりCAM作成

数量増、市況高騰が業績をけん引

22. 3期・第1四半期（4-6月）の連結業績は、売上収益が9,283億円、前年同期比28%増、コア営業利益が887億円、同491%増。様々な分野における需要の回復にともない販売数量が増加した。ケミカルズの製品を中心とした販売スプレッドの拡大が、ヘルスケアにおける薬価改定のマイナス影響を補った。販売数量面では自動車向けの需要回復の影響が大きかった。販売スプレッドではMMAモノマーの市況上昇、原料炭が低迷の一方で輸出コークス売価が上昇した炭素、米国寒波影響で需給がひっ迫したビスフェノールAなどが寄与した。

22. 3期連結業績の会社計画は、売上が3兆6,600億円、前期比12%増、コア営業利益が2,300億円、同32%増。好調な第1四半期の業績を受けて、上期業績予想は売上収益で860億円、コア営業利益で465億円上方修正したが、通期業績予想は、見極めが困難として見直していない。会社側では、一部の製品の4-6月期には特殊要因も発生しており、7-9月期以降その反動も懸念されるとしているが、事業環境は良好に推移している模様で、上方修正が期待できよう。

[株価動向・投資判断]

業績は順調に進捗、通期の業績予想上方修正にも期待が持てよう。新社長就任後初の事業説明会は12月開催の見通し。経営効率化などの施策も新たなカタリストとなろう。

<4188 三菱ケミHD 業績: IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上収益	コア営業利益	営業利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20. 3	3,580,510 (▲ 7)	194,820 (▲ 38)	144,285 (▲ 51)	54,077 (▲ 68)	38.1	32.00
21. 3	3,257,535 (▲ 9)	174,710 (▲ 10)	47,518 (▲ 67)	▲ 7,557 (—)	▲ 5.3	24.00
22. 3 予	3,660,000 (12)	230,000 (32)	216,000 (355)	97,000 (—)	68.3	24.00

(注) コア営業利益は、営業利益から非経常的な要因により発生した損益(非経常項目)を除いて算出



[主要株価指標]	(売買単位: 100株)
株価 (2021/9/3)	985.0 円
年初来高値(高値日)	985.0 円 (21/9/3)
同 安値(安値日)	613.5 円 (21/1/5)
予想 P E R (22. 3 予)	14.4 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	914.1 円
P B R	1.08 倍
予想配当利回り	2.44 %
(1株当たり配当金年24.00円)	
R O E (21. 3)	▲ 0.6 %
発行済み株式数	150,629 万株